

# 2017 年の福島県沿岸の海況の特徴

福島県水産試験場 海洋漁業部

部門名 水産業—海洋生産—水温・塩分量

担当者 池川正人

## I 新技術の解説

### 1 要旨

シラスなど、浮魚を中心とした漁況と海況とは密接な関係があることが知られている。福島県では1960年より系統だった計画的な海洋観測が実施されており、その結果は、東北区水産研究所が取りまとめる漁海況予報等に反映されている。

今回は、2017年の福島県における海洋観測の結果を用い、海況の概略について整理した。1～2月は黒潮系暖水の波及により高め基調、3～9月は平年並みないし高め基調、10～11月は沖合への親潮系冷水の波及により低め基調、12月は平年並みで推移した。

- (1)1～2月は黒潮続流が北上し2月には福島県沖に達したことによる沖合から沿岸に向いた黒潮系暖水の波及のため、高め基調となった。いわき海域における船びき網漁業のシラスに、マイワシシラスの混入が高い割合で見られた。
- (2)その後、黒潮続流は南下し、黒潮系暖水の波及も弱くなったことから、3～9月まで平年並みないしやや高めで推移した。
- (3)10～11月は、沿岸域に黒潮系暖水の弱い波及があったものの、沖合域に親潮第一分枝からの親潮系冷水が波及したことから低め基調となった。相馬、双葉海域でのシラス漁が好漁で推移したが、沿岸域への暖水の弱い波及が続いたことが影響した可能性がある。
- (4)12月は親潮第一分枝からの冷水波及が止まり、黒潮系暖水の目立った波及もなかったことから平年並みとなった。

### 2 期待される効果

水揚げ回復を速やかに推進するための、来遊資源の有効活用などに向けた資料となる。

### 3 適用範囲

研究機関、漁業関係者

### 4 普及上の留意点

操業支援に向け、今後も詳細な海況の推移を把握する必要がある。

## II 具体的データ等

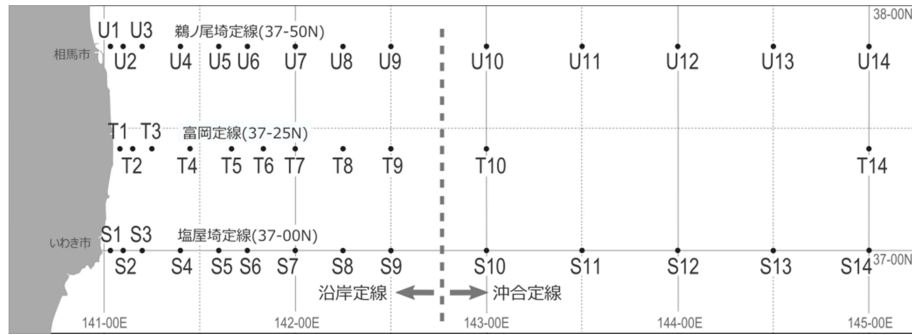


図1 海洋観測定線

表1 海洋観測結果(2017年:沿岸定線 100m 深)

定線\月	2017/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
観測値												
℃												
鵜ノ尾崎	11.9	8.2	7.7	6.0	8.1	8.0	9.6	11.4	11.8	8.4	10.2	13.1
富岡	15.4	12.5	7.9	7.8	9.3	8.9	9.6	11.0	12.1	10.2	10.0	12.9
塩屋崎	15.4	16.4	7.2	8.8	8.3	12.6	10.5	14.1	12.1	11.2	15.0	14.1
全体	13.8	12.4	7.7	7.6	8.5	10.1	9.9	12.5	12.0	10.1	12.1	13.4
鵜ノ尾崎	1.7	0.4	0.5	-0.6	0.8	-0.4	0.1	1.6	0.4	-3.9	-3.7	-0.6
富岡	4.3	4.2	0.0	0.0	1.4	0.1	0.2	0.8	0.8	-1.5	-3.4	-0.9
塩屋崎	4.2	7.2	-2.3	0.1	-0.7	4.5	0.5	4.0	-0.1	-1.6	0.7	-0.1
全体	3.1	4.0	0.0	-0.2	0.3	1.6	0.3	2.4	0.3	-2.3	-2.0	-0.5
鵜ノ尾崎	やや高め	平常並み	平常並み	平常並み	平常並み	平常並み	平常並み	やや高め	平常並み	低め	低め	平常並み
富岡	高め	高め	平常並み	平常並み	やや高め	平常並み	平常並み	平常並み	平常並み	やや低め	低め	平常並み
塩屋崎	高め	極めて高め	やや低め	平常並み	平常並み	高め	平常並み	高め	平常並み	やや低め	平常並み	平常並み
全体	高め	高め	平常並み	平常並み	平常並み	やや高め	平常並み	やや高め	平常並み	やや低め	やや低め	平常並み

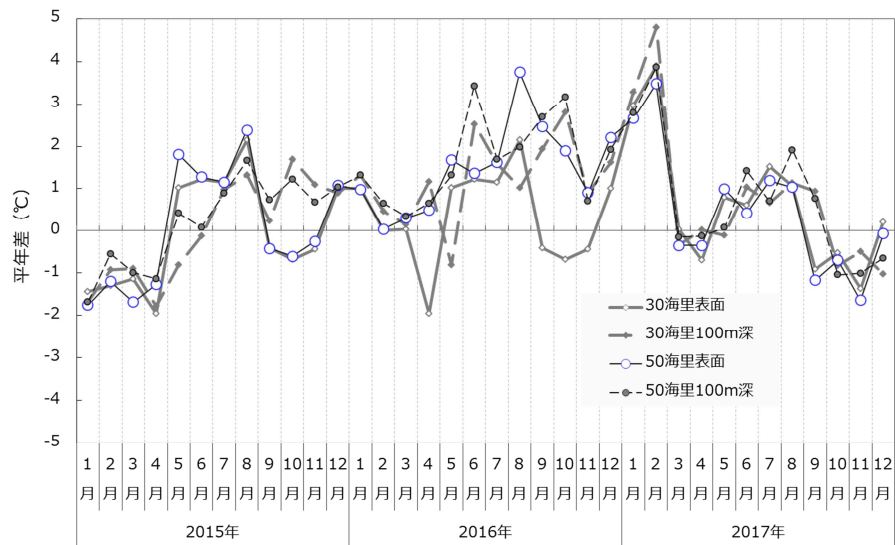


図2 距岸 30、50 海里以内の水温平年差

## III その他

1 執筆者 池川正人

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 29 年度
- (2) 研究課題名 海況予測技術に関する研究

3 主な参考文献・資料

国立研究開発法人水産研究・教育機構：太平洋および我が国周辺の海況予測システム(FRA-ROMS)